

令和5年度 第2回三条市食育推進及び農業振興審議会会議録（概要）

1 日 時 令和6年1月23日（火） 午後1時30分から午後2時37分まで

2 会 場 三条市役所 第二庁舎3階 301会議室

3 議 題

- (1) 第3次三条市食育の推進と農業の振興に関する計画案について
- (2) その他

4 出席状況

(1) 出席委員

栗生田会長、落合副会長、岩渕委員、山寄委員、山内委員、小林委員、星野委員、伊藤委員、佐久間委員、宮島委員、佐藤委員

(2) 欠席委員

栗原委員、須佐委員

(3) 事務局職員

村上福祉保健部長

片野経済部長

健康づくり課 小林課長、梨本室長、大泉主査、小林主任、小柳主任

農林課 藤家課長、目黒課長補佐、佐藤（一）係長

(4) 報道機関 なし

5 内 容

(1) 開会

(2) あいさつ 村上福祉保健部長

(3) 議 題

ア 第3次三条市食育の推進と農業の振興に関する計画案について（資料No.1の食育部分を大泉主査、農業部分を目黒課長補佐が説明）  
質疑等

栗生田会長	計画の公表の仕方はどのようにするのか。
大泉主査	三条市のホームページにて市民の皆様に公開すると同時に、関係団体へ配布したいと考えている。
栗生田会長	ホームページで公開することも必要だと思うが、かなりのボリュームになると思うので、ダイジェスト版をチラシにしたり、もう少し分かりやすいように

<p>山寄委員</p>	<p>工夫して欲しい。</p> <p>担い手協議会の立場で意見させてもらおうと、P8 第3章の6行目に「離農者の増加など厳しい状況」とあるが「著しい増加」などもう少し強い表現をしてもらいたい。また、下から4行目に「中山間地農業の振興」とあるが、現在、農村基本法が改正されている最中で、中山間地農業の振興が変わってくるのが考えられる。そのため、それに沿った内容で緩い表現にしてもらった方がマッチすると思う。</p> <p>また、会長から意見があったように、ダイジェスト版を配布するとしたら、食育という観点もあるので、小学校等に配布いただいて親御さんが目に触れるような機会があると良い。</p>
<p>藤家農林課長</p>	<p>農業に関わる表現の仕方については、検討していきたい。</p>
<p>小林委員</p>	<p>P22 の主要施策のところ、骨子案の時に「貧困」の言葉を入れて欲しいとお願いし、入れていただいたのですが、「米飯食の推進」の中に入っているのは、脈絡がなく違和感を感じる。「貧困」は独立なものとして捉えた方が施策としてはやりやすいのではないか。</p>
<p>大泉主査</p>	<p>ご飯を主食に、主菜、副菜をそろえたバランスの良い食事を推進するのが「米飯食の推進」の取組になる。そのため、市民全員が栄養バランスに配慮した食事をとれるようにという内容の項目を入れている。米飯食の推進の中に子どもの「貧困」という言葉を入れた理由は、貧困など色々な背景がある中でも、子どもたちが健全な食生活を推進することが出来るようにという意味で入れてある。</p>
<p>小林委員</p>	<p>意図は分かったが、貧困の子どもたちは健全な食生活、食育までは到達していない。「貧困」という一つのワードは全ての人が目を向けるべきことである。しかし、今回の主要施策に入るところがないため、この場所になっているとは思いますが無理がある。</p>
<p>小林健康づくり課長</p>	<p>国の計画の中でも「貧困」は、地域における食育の推進の一つとして「貧困等の状況にある子どもたちに対する食育の推進」となっている。三条市もその考えに沿って「米飯食の推進」に入れていることを御理解いただきたい。</p>
<p>小林委員</p>	<p>国の計画では地域における食育の推進に入っているが、三条市の計画では4つの主要施策の中に入る場所はここくらいだとは思いますが、「米飯食の推進」に入れるのは違うのではないか。</p>

粟生田会長	<p>受け止め方は色々あるかと思うが、貧困の問題をこの場で殊更に取り上げて議論しなくてはいけないということになってくると、この場の議題としてはそぐわない部分も出てくる。市民として、貧困への取組について行政に意見をするのは色々な形で出来ると思う。今日の会議では「第3次食育の推進と農業の振興に関する計画」にフォーカスを当てて議論するのが良いと思うので、協力をお願いしたい。</p>
佐藤委員	<p>全体を通して、「引き続き取り組む」「引き続き推進する」という言葉がよく出てくるが、それについては効果があったから今までと同様に引き続き取り組むのか、反省点があったから新たにに取り組むのかがこの中では見えてこなかった印象がある。</p> <p>もう一つは、P36の農業の評価指標ですが、例えば「農業機械等導入補助金などの支援を受けた農業者の販売増加額」が令和4年から令和11年の目標値が倍増していて素人目には大きな数字に感じる。これはある程度、実現可能な数字で上げてあるのか。</p> <p>もう一つは、農業所得の向上のところで、既存作物を中心に語られているように感じるが、視点を変えると異常気象や気候変動もある中で、全く別の作物を考えて所得を上げることもできるのではないかと感じた。</p>
大泉主査	<p>最初の「引き続き」という御質問に対して、方針については指標を見てある程度効果が見込める部分は引き続き取り組むとしており、事業ベースでは中身を見直した中で、方向性を変えなくて良いという意味で引き続きを使っている。</p>
藤家農林課長	<p>農業分野については、基本的にはまだ現状の取組を進める必要があるという視点で「引き続き」を書いているものが多い。「農業機械等導入補助金などの支援を受けた農業者の販売増加額」の指標については、年間の補助予算額があり、それを受けた農業者の方の販売増加額には要件があるため、それをシュミレーションした数字を上げている。そのため、実現可能な数字として捉えている。また、異常気象等で作物を変えていくという視点があるかという部分で、品目は変えなくても品種を変えていくこともあるだろうし、果樹でいうと南の方の作物がこちらでも栽培できるようになってきている。しかし、市場の状況や流通を考えて選択をするのは農業者と考えているため、行政側から農作物を変更するという明確なものは考えていない。</p>
山寄委員	<p>今ほど評価指標の数字については説明のとおりと捉えている。農産物についてはいきなり切り替えるのではなく、今やっているものをある程度回収しなければいけないし、農地を維持管理するために皆さんの税金でしっかりとしたほ場を作っているのが三条市と思っている。</p> <p>P36の評価指標の「ただ米」の直接販売量が230トンというのが見込めて</p>

	<p>いるのかと、P38 のふるさと納税の寄付額は、もう少し上を目指して良いのかと思うので伺いたい。</p>
<p>藤家農林課長</p>	<p>ただ地域の米の生産量は全体では4,000トン程あり、ほとんどが農協を通じた委託販売となっている。直接販売というのは農業者の方が直接消費者に販売するもので、自ら価格を決定して売る、価格決定力を持って収入を上げていく取組の一つになる。ここは、現在協議会を立ち上げて進めているところである。その中で、ヒアリングして実現可能な数字として上げている。果物を返礼品としたふるさと納税の寄付額については、もっと増やしたいという思いはあるが、現実には農協と共選出荷していることもあり、それを踏まえた中での設定としている。</p>
<p>岩渕委員</p>	<p>P16 の図 17 を見ていただくと、少しでも減塩することで血圧を下げるのに影響があることが分かる。目標量まで下げるや半分減らすというとハードルが高いが、わずかでも減らすことで効果があることを伝えて欲しい。</p>
<p>大泉主査</p>	<p>御意見を受け、指導の場面でそのように表現するようにしていきたい。</p>
<p>栗生田会長</p>	<p>同じところで、有意差がどうかというのを見ると知っている人は分かるが、少しの違いが大きく影響するんだということをもう少し強調しても良いと思う。</p>
<p>星野委員</p>	<p>地元産の米を学校給食に使用しているのは知っているが、米以外の品目で地元産のどんな食材を使っているか。またその使用割合はどのくらい分かれば教えて欲しい。</p>
<p>藤家農林課長</p>	<p>お米は100%地元産のものを使用している。その他で野菜類については、正確な数字は把握していないが、2割程度は地元産のものを農家から直接給食に入れてもらっている。その他にも、市場を通じて地元産のものを使用しているため、正確な数字を把握するのが難しい。</p>
<p>星野委員</p>	<p>そういった数字は何かの形で市民に周知しているのか。</p>
<p>藤家農林課長</p>	<p>数字を正確につかむのが難しいため、対外的には周知していない。</p>
<p>栗生田会長</p>	<p>使用率は季節変動などもあり、数字がつかみにくいことはあると思う。しかし、地域振興や食育推進の観点からみて、地元産の使用率を維持、上げていくことは示す必要があると思うので、前向きに検討して欲しい。</p>

藤家農林課長	検討していきたい。
栗生田会長	今年は正月から地震があって、皆さん地震やその時の生活がどうなるかと不安に思うことが大きいと思う。今現在、行政として食糧の備蓄など、市民生活の維持のための方策等があれば教えて欲しい。
大泉主査	災害時の食の備えについては、食育メールやホームページ等で市民に周知し、啓発を進めているところである。
栗生田会長	それは市が備蓄をするということではなく、個人で備蓄をするということか。
大泉主査	その通りである。
宮島委員	地震のことで、避難所で提供されている食事の塩分が高いというのをテレビで見た。仕方ないことかもしれないが、三条市ではそういったことを少しでも想定しているか。
大泉主査	避難所の食料については、災害時は炊き出しを準備できるように災害訓練でも取り組んでいる。その場合は、学校給食の調理場等を活用して食糧を持っていくことになる。
岩淵委員	参考ですが、避難所ではストレスや感染症など他の病気の方が問題になる。そのため、短期間であれば普段より少し塩分が多いくらいは気にしなくてよいと思う。
佐久間委員	<p>防災の話があったが、以前勤めていたところでは防災食品の献立というのが給食にあり、火を通さずに食べられるレトルトカレーなどが出ている。子どもたちは普段から災害食を食べ慣れるという訓練も大切と思うので、そういった防災食の献立が三条市にもあっても良いと思う。</p> <p>もう1点は、前回の審議会の時に子育て世代の若い保護者をターゲットにした講演会等の取組をお願いしたが、小学校では入学前の就学時健診時に教育委員会が講座を開いている。何年かに一度でも良いので、そういった場を活用して食育についての講演をするのも良いと思うので情報提供させていただく。</p>
大泉主査	防災食を献立に提供するという点に関しては、給食担当の教育総務課と相談しながら検討していきたい。また、就学時健診での食育の講話に関しても、子育て支援課等と相談しながら進めていきたい。
落合委員	先ほど話題にも上がったP22の米飯食の推進の中の「貧困」の部分について、

	<p>仕事柄、苦しい立場にある保護者の方々と接する機会がいくつかある。貧困が原因で不適切な養育にならざるを得ない方々にとっては「貧困や保護者の不適切な養育など」の部分の表現は、責められているように受けとるのではないかと感じている。もう少し言い方を柔らかくしていただきたい。</p>
大泉主査	<p>市民の皆様に公開する際には、言い回しについて考慮していきたい。</p>
栗生田会長	<p>表現に関しては、事務局一任ということで委員の皆様から御理解いただいたということで良いか。この場での議論は令和 11 年度末まで見通したものであり、責任重大である。 (委員から特に意見なし)</p>
山寄委員	<p>農業の振興の部分で、一つ提案したい。P33 にグラフで表してあるが、少し形を変えて、経営体の規模によって耕作している比率などを出していただけると分かりやすいと思う。10ha 以上が最高値になっているが、おそらく 10ha 以上の耕作者が三条市内の大多数になると思う。小さい規模の方も多いが、今後大規模にやられる方が地域のほとんどを賄う形になると思うので、農業者が苦しんでいるということを市民の方にも分かってもらえると良い。</p>
藤家農林課長	<p>中規模、大規模の方が一目で分かる表かと思うが、今現在どうやってその数字を出したらよいか分からない部分もあるので、検討していきたい。</p>

(4) その他（小林健康づくり課長）

今後の予定について、本日いただいた御意見を踏まえた計画案を 2 月に市議会の協議会に諮り、その後パブリックコメントを行い、3 月末に策定予定である。

閉会 午後 2 時 37 分